

透析における様々な合併症として今回は「眼底出血」です。

### 眼底出血とはどんな病気？

眼の奥に存在する重要な構造物である「網膜」という薄い膜（眼で見たものを脳に焼き付ける役目を担う、カメラでいうフィルムの役割）を通る血管が破綻して、出血が生じます。出血する部位や出血量により、急激な視力低下が生じることのある怖い病気です。逆に症状が出ない場合は、気づかないうちに病気が進行するため注意が必要です。

### 原因は？

糖尿病や高血圧など、眼の血管にも動脈硬化を来しやすい病気がある場合に起こりやすいといわれています。とくに糖尿病に罹っている場合には、糖尿病網膜症と呼ばれ、進行した場合には眼底出血を生じやすくなります。それ以外には、網膜裂孔（網膜に穴が開いてしまう）、網膜静脈閉鎖症（網膜の血管が閉鎖してしまう）、眼外傷（眼をぶつけてしまう）などが知られています。

### こんな治療を行います

糖尿病網膜症では、病気が進行し、視力低下につながる眼底であれば、眼の奥にレーザー光線を照射して凝固する、網膜光凝固という治療が行われます。網膜が剥がれてしまう「網膜剥離」と呼ばれる状態であれば緊急で手術が必要です。網膜剥離を伴わない場合は、安静を保ち、出血が進行しないように努め、出血が自然に吸収されるのを待ちますが、視力障害を来たす場合には、硝子体といわれる眼球の中央部分にガスを注入する治療も行われることがあります。

### 早期発見と予防 こんな症状があれば医療スタッフにすぐ報告を

急に片眼の視力が低下した場合には、すぐ医療スタッフに報告しましょう。また、視力の低下がなくても、糖尿病に罹っている場合には、定期的な眼底の検査が必要です。眼科を受診したことがない場合には、眼科受診を勧めます。